

校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？

校長先生は先週長野県というところに出張に行っていたのですが、帰りに大雨のために、特急電車がとまってしまって、あわや大阪に帰って来られなくなるところでした。ものすごく大回りをして何とか戻ってくることができたのですが、ほんと大変でした。

さて、先週のお題ですが、

機與字加良 仁加川機天須

加尔八川天伊機末之與字

さすが、みなさんの推理力には驚きました。正解は「今日から二学期です。がんばっていきましょう。」と万葉仮名で書いてありました。

この万葉仮名、日本の言葉を漢字であらわすのに考えられたのですが、意味がずれていることと、画数が多くて不便でした。そこで考えられたのがカタカナでしたね。

機の右側の一部から「キ」が、與の右側の一部から「ヨ」が、こんなふうに漢字の一部からカタカナができたのです。

それでは、もうひとつの日本の文字、ひらがなはどうやってできたのでしょうか？少しまわりの人と聞き合ってみてください。

4年生ぐらいで、少し学ぶかと思いますが、高学年の人はわかりますよね。

ひらがなも、漢字からできたのです。漢字と言っても、みなさんが習っている漢字そのものではなく、それをくずして書く草書体からつくられたのです。たとえば、安から「あ」が、以から「い」が、カタカナと同じ漢字からできたものもあれば、違う漢字からできたものもあるのです。

では、この漢字、万葉仮名はひらがなではなんと書いてあるのでしょうか？

やさい

これは「やさい」ですね。もとの漢字はわかりますか？ 「也左以」と書いていました。第2問

かに奈ん

冬に食べるものです。そう、「かになべ」ですね。元の漢字は「加仁奈辺」です。

ラストは少し難しいです。

波ちみつ

食べ物ですが、赤ちゃんは食べない方がいいですね。ホットケーキと食べることが多いかも。

正解は「はちみつ」でした。元の漢字は「波知美川」なんですね。ちなみに、みなさんがよく見る漢字は「楷書体」でこれをもとに、すばやく略して書いたものが「草書体」さらにこれを略して書きやすくしたものが「ひらがな」です。

そこで、こんな疑問ができませんか？

すでに、漢字を簡単に書くものとして「カタカナ」があるのですが、なぜ「ひらがな」ができたのでしょうか？これ、日本語をならう外国の人はみんな疑問に持つらしいですよ。「普通アメリカやイギリスでは、アルファベットだけなのに、なぜ日本語は漢字、カタカナ、ひらがなと3つもあるのでしょうか？覚えるのが大変です。」というらしいですが、みなさんはわかりますでしょうか？少し周りの人と聞きあってみてください。

これは、漢字やカタカナが実はかける人、習える人が限られていたからなのですね。そこで、教えてもらえない人たちが中心になって、じゃあ漢字からカタカナでない新しい文字をつくりましょう！ということで新しい文字ひらがなができたのですが、いったい教えてもらえなかったひとたちというのは、どんな人たちでしょうか？

女性なのです。昔は漢字やカタカナは男の人限定の文字で、女性が書くのはNGでした。しかし、女の人も手紙や日記を書きのこしたいということ

で、漢字を崩した草書体から、ひらがなができたとされています。

ですので、ひらがなは、昔は女性限定の文字でした。こうしてつくられたひらがなは、あっという間に日本中に広まり、紫式部、清少納言といった世界中で有名な女性作家が平安時代にうまれたのでした。

さて、いまでこそ、ひらがなは小学校でもならうように、男女関係なく使います。

どうやって女の人専用だったひらがなを、男の人でも使うようになったのでしょうか？これが今週のお題です。

今日も最後まで静かに聞いていただきありがとうございました。

す保一つや
計りえゆいの安幾
と奈利来えた
安幾波と久えよも
いいてす祢